

参加者 田中・吉永・三村・宇田津・高嶋・草野・池崎

- ・ リサイクル推進員の人に「何のために分別するのか」と聞くと「エッ」と言われる。
- ・ 研修は「分け方」が中心。
- ・ 田中商店に行ったらどうか。
- ・ 推進委員会（推進員の地区代表＋区長）の会議があるが、だいたいシャンシャンで終わる。会議の内容が個々の推進員に伝わっていない。
- ・ 今までの推進員は環境教育を受けたことがない。廃プラの分別を始める時「なぜやるの？」という質問が出なかった。大勢の前では意見を言えない。
- ・ それは文化の問題。そのことを踏まえて現実的に可能な範囲で底上げを目指すのか、それともその文化的なものを変えようというのかで、やることは変わるのでは？ 後者は学校教育段階でやらないと、難しいだろう。
- ・ リサイクルではなくリユースに意欲が出る仕組みに。
- ・ 還元金の問題。
- ・ 田中さんのところに研修に行くなら、行くだけでなく何のために行くのかを明確にしないと。
- ・ 話ができる場づくりが必要。
- ・ Q&Aを作ってもその疑問点を話し合うことができないと。
- ・ 市長は仕組みを変える気はあるのか。それをしないといくら研修ばかりやってもダメ。それをうまく導入できるための、学習を話し合う。
- ・ プラザがあった方がいい。全国にあるプラザはリサイクルの推奨になっていて、ごみ減らしになっていない。
- ・ 日常的にごみを減らす活動をしているNPO。いつでも相談に乗れる、いつでも講師を派遣できる。
- ・ NPOは既存の組織でなく、新たに立ち上げるのが良い。
- ・ いろいろな団体と市職員にも理事になってもらう。
- ・ 田中商店の仕事の一部を放出してNPOにやらせる。
- ・ NPOならリユース品を売ってもいいし、視察の受け入れ等でも稼いで構わない。
- ・ ゲストティーチャーの派遣は学校の負担では無理。市で予算枠を確保しないと。
- ・ 集まる人が肩書きで選ばれてしまうと話がすすまない。やる気のある人でやる。
- ・ 水俣病のことで50億ぐらい出させてやれば？
- ・ 50年後のことを考えてNPOを作る。情報センターをもらうとか。資料館や環境センターとの連携で。
- ・ 修学旅行で資料館に行った後、ごみについて学びたいというニーズはある。